



ARIS Risk & Compliance Manager

統制管理表記規則マニュアル

バージョン 9.8 – Service Release 5

2016 年 6 月

This document applies to ARIS Risk & Compliance Manager Version 9.8 and to all subsequent releases. Specifications contained herein are subject to change and these changes will be reported in subsequent release notes or new editions.

Copyright © 2010 - 2016 [Software AG](#), Darmstadt, Germany and/or Software AG USA Inc., Reston, VA, USA, and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors.

The name Software AG and all Software AG product names are either trademarks or registered trademarks of Software AG and/or Software AG USA Inc. and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors. Other company and product names mentioned herein may be trademarks of their respective owners. Detailed information on trademarks and patents owned by Software AG and/or its subsidiaries is located at <http://softwareag.com/licenses>.

Use of this software is subject to adherence to Software AG's licensing conditions and terms. These terms are part of the product documentation, located at <http://softwareag.com/licenses> and/or in the root installation directory of the licensed product(s).

This software may include portions of third-party products. For third-party copyright notices, license terms, additional rights or restrictions, please refer to "License Texts, Copyright Notices and Disclaimers of Third Party Products". For certain specific third-party license restrictions, please refer to section E of the Legal Notices available under "License Terms and Conditions for Use of Software AG Products / Copyright and Trademark Notices of Software AG Products". These documents are part of the product documentation, located at <http://softwareag.com/licenses> and/or in the root installation directory of the licensed product(s).

目次

| | | |
|-------|-------------------------|----|
| 1 | はじめに | 1 |
| 2 | テキストの表記規則 | 2 |
| 3 | 本マニュアルの内容 | 3 |
| 3.1 | 目的および範囲 | 3 |
| 4 | 統制管理用 ARIS 表記規則 | 4 |
| 4.1 | ユーザーとユーザー グループの作成 | 4 |
| 4.1.1 | オブジェクトと関係 | 4 |
| 4.1.2 | 役割とユーザー等の属性 | 6 |
| 4.2 | 統制実行タスクとその関係の作成 | 8 |
| 4.2.1 | オブジェクトと関係 | 8 |
| 4.2.2 | 統制実行タスクの属性 | 9 |
| 4.3 | オブジェクトと関係の非アクティブ化 | 12 |

1 はじめに

ARIS のモデルを用いて業務プロセスと統制やリスクなどを記録すると、さまざまな利点（一貫性、複雑さの軽減、再利用性、評価の可能性、整合性など）があります。

ただしこれは、ARIS Architect でのモデリングのメソッドおよび機能の規則と表記規則が順守されている場合のみ実行できます。これらのルールに従った場合にのみ、すべてのモデル化されたデータは ARIS Risk & Compliance Manager (ARCM) に転送されて、再利用することができます。

2 テキストの表記規則

各項目の表記規則について説明します。

- メニューアイテムやダイアログ ボックスなどの UI 用語は角括弧 ([]) で表記されます。
- ユーザーが入力する内容は、山括弧 (<>) で表示されます。
- 複数行から成る長いディレクトリ パスなどの、1 行から成る例のテキストは文字 ↵ により行の最後で分割されます。
- ファイルからの抽出テキストは、次のフォントで表示されます。

```
This paragraph contains a file extract.
```

3 本マニュアルの内容

以下の各セクションでは、説明ビュー、モデル タイプ、オブジェクト タイプ、関係タイプと接続線タイプ、および属性の使用に関する標準を説明します。

3.1 目的および範囲

目的: モデリング ガイドラインの仕様設計

本マニュアルに含まれないもの: ユーザーの文書

4 統制管理用 ARIS 表記規則

4.1 ユーザーとユーザー グループの作成

4.1.1 オブジェクトと関係

ユーザーおよびユーザー グループは、[要員] (OT_PERS) および [役割] (OT_PERS_TYPE) のオブジェクトを使用して ARIS Architect の組織図でモデル化されます。

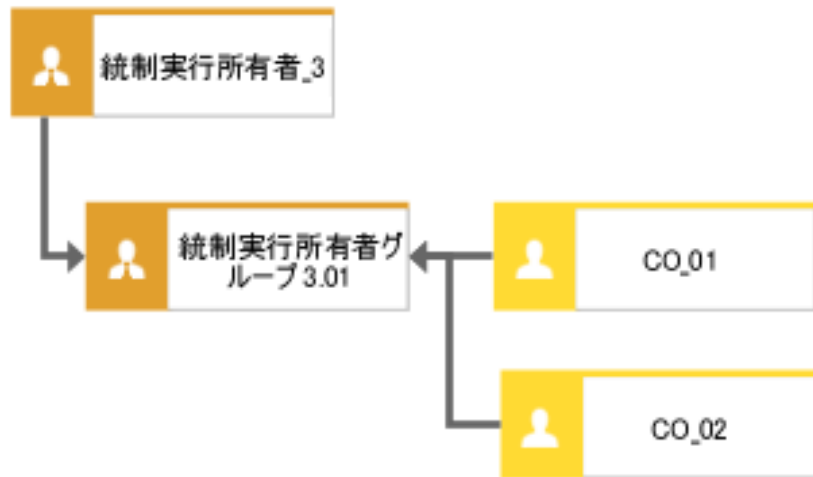


図 1: ユーザーおよびユーザー グループの構造

上位役割 [統制実行所有者_3] によって、ARIS Risk & Compliance Manager では下位役割が果たす役割が指定されます。この 2 つの役割は、[汎化結果である] 接続線を使用して接続されます。「統制実行所有者グループ 3.01」は「統制実行所有者_3」の汎化の結果です。作成されるグループの役割とレベルは上位役割名により定義されます。<役割>_<レベル>、つまり、統制実行所有者_3 役割: 統制実行所有者、レベル: 3 (またはオブジェクト固有) で定義されます。ユーザー グループは、上位役割 (統制実行所有者_3) に対して ARIS Risk & Compliance Manager で生成されません。

以下がさまざまなレベルに適用されます。

- レベル 1: クライアント汎用
つまり、権限が複数クライアントに割り当てられます。
- レベル 2: クライアント固有
つまり、権限が特定のクライアントに割り当てられます。
- レベル 3: オブジェクト固有
つまり、方針、リスク、または統制などの特定のオブジェクトに権限が割り当てられます。

上記の例では、[統制実行所有者グループ 3.01] ユーザー グループは、[統制実行所有者] の役割およびレベル「3」(オブジェクト固有の権限) を使用して ARIS Risk & Compliance Manager で生成されます。また、ユーザー ID 「CO_01」と「CO_02」のユーザーが生成されます。

役割名 (ARCM) と役割 (ABA) の対応一覧

次の割り当ては、ARIS Risk & Compliance Manager での役割と ARIS Architect で使用される名前に適用されます。その他の役割については、他の表記規則マニュアルで説明しています。

| 役割 (ARCM) | 役割 (ABA) | 注意 |
|-----------------------------|----------|---------------|
| roles.controlmanager | 統制担当者 | レベル 1、2、および 3 |
| roles.controlexecutionowner | 統制実行所有者 | レベル 3 のみ |

4.1.2 役割とユーザー等の属性

役割 (ABA) とユーザー グループ (ARCM) の割り当て

次の割り当てを [役割 (ユーザー グループ)] オブジェクトに適用できます。

| ABA 属性 | API 名 | ARCM 属性 | M* | 注意 |
|--------|---------|--------------|----|---------------------------------------|
| 名前 | AT_NAME | name | ○ | ユーザー グループ名は最大 250 文字に制限されています。 |
| 説明/定義 | AT_DESC | description | - | |
| 役割 | - | role | ○ | [役割] と [役割レベル] の値は、上記のとおり指定されます。 |
| 役割レベル | - | rolelevel | ○ | |
| ユーザー | - | groupmembers | - | [ユーザー] は要員と役割間の [実行する] 接続線によって指定されます。 |

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

要員 (ABA) とユーザー (ARCM) の割り当て

次の割り当ては [要員 (ユーザー)] オブジェクトに適用できます。

| ABA 属性 | API 名 | ARCM 属性 | M* | 注意 |
|------------|---------------|-------------|----|--|
| ログオン | AT_LOGIN | Userid | ○ | ユーザーのユーザー ID は最大 250 文字に制限されています。 |
| 名 | AT_FIRST_NAME | firstname | ○ | |
| 姓 | AT_LAST_NAME | lastname | ○ | |
| | | name | - | 姓と名の組み合わせ。 |
| 説明/定義 | AT_DESC | description | - | |
| 電子メール アドレス | AT_EMAIL_ADDR | email | ○ | |
| 電話番号 | AT_PHONE_NUM | phone | - | |
| | | clients | - | [クライアント] フィールドは、データのインポート先のクライアントによって指定されます。 |
| | | substitutes | - | [代理] フィールドは、手動でのみ設定されます。 |

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

4.2 統制実行タスクとその関係の作成

4.2.1 オブジェクトと関係

統制管理のためのオブジェクトと関係を ARIS で作成して、マスター データの保守を容易にすることができます。これには、[ビジネス コントロール図] モデル (MT_BUSY_CONTR_DGM) を使用できます。次のオブジェクトと、オブジェクト間の関係が使用されます。

| オブジェクト | 接続線 | オブジェクト | 注釈 |
|---------|-----------|---------|---|
| 統制 | 開始される | 統制実行タスク | 統制実行タスクは、統制実行記録の説明に使用されます。たとえば、記録アクティビティ、頻度、結果形式を指定します。 |
| 統制実行タスク | 影響する | 組織ユニット | 記録の影響を受ける組織ユニットを割り当てます。 |
| 役割 | 割り当てられている | 統制実行タスク | (統制実行管理者の役割がともなう) ユーザー グループを担当グループとして統制実行タスクに割り当てます。 |

4.2.2 統制実行タスクの属性

統制実行タスク オブジェクト (OT_CTRL_EXECUTION_TASK) に適用される割り当ての概要は、次のとおりです。

| ABA 属性 | API 名 | ARCM 属性 | M* | 注意 |
|--------------|--------------------------------------|---------------|----|---|
| 名前 | AT_NAME | name | ○ | |
| オブジェクトの GUID | | GUID | ○ | |
| 統制記録アクティビティ | AT_CTRL_EXECUTION_TASK_DOC | activities | ○ | 統制実行の記録に必要なアクティビティを記述します。 |
| 選択 | AT_CTRL_EXECUTION_TASK_SELECTIVITY | selectivity | ○ | 実行される記録の範囲 (完了記録、サンプル、サンプル %、サンプル数) を示します。 |
| 結果形式 | AT_CTRL_EXECUTION_TASK_RESULT_FORMAT | result_format | ○ | 計算結果の形式を示します。 |
| 統制記録の頻度 | AT_CTRL_EXECUTION_TASK_FREQUENCY | frequency | ○ | 統制実行が記録される間隔を示します。使用できるオプション: <ul style="list-style-type: none">▪ 単発▪ 日次▪ 週次▪ 月次▪ 四半期▪ 半期▪ 年次▪ 隔年▪ 場合に応じる |

| ABA 属性 | API 名 | ARCM 属性 | M* | 注意 |
|----------------------|--|----------------------|----|--|
| イベント駆動統制記録許可 | AT_EVENT_DRIVEN_CTRL_EXECUTION_ALLOWED | event_driven_allowed | ○ | アドホックの統制記録実行の生成が許可されていることを示します。 |
| 統制実行記録の期限 (単位: 日) | AT_CTRL_EXECUTION_TASK_DURATION | duration | ○ | 統制実行所有者が統制実行の記録を使用できる日数を示します。この期間が、統制実行の記録を完了しなければならない日付を決定します。 |
| 開始日 | AT_CTRL_EXECUTION_TASK_START_DATE | startdate | ○ | 統制実行の記録の開始日を示します。 |
| 終了日 | AT_CTRL_EXECUTION_TASK_END_DATE | enddate | | 統制実行の記録の終了日を示します。 |
| 記録期間の長さ | AT_CTRL_EXECUTION_TASK_CONTROL_PERIOD | control_period | ○ | 統制実行が記録される期間を指定します。使用できるオプション: <ul style="list-style-type: none"> ▪ 日 ▪ 週 ▪ 月 ▪ 四半期 ▪ 半期 ▪ 年 |
| オフセット (単位: 日) | AT_CTRL_EXECUTION_TASK_OFFSET | offset | ○ | 記録作成期間に先行する記録を作成した期間の日数を示します。 |
| タイトル 1/リンク 1 | AT_TITL1/AT_EXT_1 | documents | | リンクした文書を示します。 |
| タイトル 2/リンク 2 | AT_TITL2/AT_EXT_2 | | | |
| タイトル 3/リンク 3 | AT_TITL1/AT_EXT_1 | | | |
| タイトル 4/リンク 4 | AT_TITL4/AT_EXT_4 | | | |

| ABA 属性 | API 名 | ARCM 属性 | M* | 注意 |
|-------------------|----------------------------|------------------|----|--|
| ARIS 文書格納リンク 1 | AT_ADS_TITL1/AT_ADS_LINK_1 | documents | | リンクした文書を示します。 |
| | AT_ADS_TITL2/AT_ADS_LINK_2 | | | |
| ARIS 文書格納リンク 2 | AT_ADS_TITL3/AT_ADS_LINK_3 | | | |
| | AT_ADS_TITL4/AT_ADS_LINK_4 | | | |
| ARIS 文書格納リンク 3 | | | | |
| ARIS 文書格納リンク 4 | | | | |
| | | affected_orgunit | ○ | 組織ユニットへの接続線によって指定され、影響を受ける組織ユニットへの対応するリンクが ARCM に保存されます。 |
| | | owner_group | ○ | 役割への接続線によって指定され、割り当てられる統制実行所有者グループを指定します。 |

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

4.3 オブジェクトと関係の非アクティブ化

ARIS Risk & Compliance Manager のオブジェクトと関係は、変更を追跡できるようにするためバージョン管理されます。そのため、ARIS Risk & Compliance Manager のオブジェクトと関係は非アクティブにされ、削除されません。つまり、対応するデータ アイテムは非アクティブになり、データベースからは削除されません。

インポートによって ARIS Risk & Compliance Manager でオブジェクト/関係を非アクティブにするには、対応するように ARIS Architect でマークする必要があります。これを実行するには、[非アクティブ] (AT_DEACT) 属性を使用します。この属性はオブジェクトと接続線の両方に設定できます。属性が設定されると、オブジェクトまたは接続線は次にインポートを実行する際に非アクティブになります。

もちろん、これが実行されるのは、ARIS Architect エクスポート ファイルにオブジェクトと関係が含まれている場合のみです。ARIS Risk & Compliance Manager へのインポートが正常に実行されたら、ARIS Architect でオブジェクト/接続線を削除できます。インポートが実行される前にオブジェクト/接続線が ARIS Architect で削除された場合は、これらを ARIS Risk & Compliance Manager で手動で非アクティブにできます。